

矢作川流域圏懇談会通信

山部会編 vol.6



発行日：平成 25 年 11 月 ●日
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 14 回山部会WGを開催しました！

11月9日（土曜日）に第14回山部会WGが開催されました。
今回のWGでは、山部会で取り組んでいる4つのことのうち、山村再生担い手づくり事例集、矢作川流域圏森づくりガイドライン、木づかいガイドラインについて話し合いました。



日時：平成 25 年 11 月 9 日（土）9:30～12:30
場所：奥矢作レクリエーションセンター 大会議室
参加者：16名（事務局含む）

◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について



山村再生担い手づくり事例集の作成に向けてのヒアリングの実施状況及び、今後のヒアリング調査の予定について話し合いました。
これまで2団体にヒアリング調査を実施し、今後19団体にヒアリングしていくことを確認しました。



2. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて



森づくりガイドラインの作成に向けて、関連する自治体への意向把握結果の報告と、流域圏の「森づくり」をリストアップすることを話し合いました。
リストアップについては、①現況図、②地区別の森林基礎データ、③各地区でアピールしたい流域圏の森づくりの事例、④市境・県境を越えた連携による森づくりの事例を対象とすることを確認しました。



3. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて



木づかいガイドラインについては、ライフステージ別に整理したアタック表をもとに話し合いをしました。
話し合いの中では、表の中に現在行われている事例を入れてみる、対象として、素人山主や購買層を追加する、木工製品をつくる人との連携を図るなどの提案が出されました。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手事例集について

山村再生担い手事例集づくりに向けたヒアリングの実施状況について確認しました。

○実施した感想

- ・NPO 法人福寿の里自然倶楽部へのヒアリングでは、流域圏の交流に向けた前向きな提案があったので、福寿の里で山部会WGを開催したらどうか。(洲崎)
- ・とよた都市農山村交流ネットワークへのヒアリングでは、豊田と岡崎の熱い交流ができたことがよかったと取材者が喜んでいました。(長澤)



○今後の実施予定

- ・ねばっこ餅(11/27)、恵南森林組合(12/11)、NPO 法人奥矢作森林塾(12/8)、株式会社 M - easy(11/27)、旭木の駅プロジェクト(11/27)、green maman(11/26)、農業法人みどりの里(11/15)
- ・11月26日は中間報告会を開催。

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

ガイドラインの作成に向けて、関連する自治体へのヒアリング結果の報告と今年度とりまとめるガイドライン内容、役割分担を話し合いました。

○実施した感想

- ・愛知県は流域圏懇談会についてあまり認識されていない感触を受けた。(蔵治)
- ・岐阜県、長野県、中部森林管理局について重要性を理解しており、一緒に検討していきたい意向を持っているようである。(蔵治)



○今後の実施予定

- ・現況図については、C T I が用意することでいいか。(蔵治)
 - ▶ よい(土屋)
- ・植生図については提供が可能である。(洲崎)
- ・森の健康診断のデータがあれば重ね合わせできないか。(丹羽)
 - ▶ G I S で作成されたデータを提供頂ければ対応は可能。(土屋)
- ・地区別の森林の基礎データについて、間伐実績は、岡崎と豊田は調査が可能。それ以外は、各組合で対応してほしい。(蔵治)
 - ▶ 恵南森林組合では、流域内の集計はないが、全体では把握可能。(大島)
- ・検討にあたっては、林業指導普及員も同じテーブルについてもらってはどうか。そうすれば、森林に関するデータや事例なども出やすいのでは。(今村)
- ・現場のことは、森林施業プランナーに聞けばいいのでは。情報量がすごい。(丹羽)
- ・今年度は、現況図の作成と地区別の森林の基礎データをあつめるまでにしたい。(蔵治)



●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインについて、ライフステージ別に具体的な内容を記載したものに対しての話し合いを行いました。

- ・赤ちゃんから対象になっているのがいい。木のおもちゃで遊んだ人の方があそびの工夫ができ、リーダーシップにつながっている例がある。(松井賢)
- ・対象に素人山主も追加し、山に関心を持ってもらうきっかけになればいい。(丹羽)
- ・表の中に具体的な事例を入れていくといいと思う。その中で不足する部分も見えてくる。(丹羽)
- ・購買層もターゲットとして重要ではないか。(長澤)
- ・恵南森林組合では、定年者を対象に木工クラブとして製材所を開放してきたが、参加者があまり広がらなかった。人口が多くないと難しいのではないかと感じた。(大島)
- ・自分が森に入ることはハードルが高いため、木育や木工製品との関わりをつくるのが先決。しかし、矢作川で販売されているものは、丸太材であり、木工製品をつくる人との連携が重要ではないか。(蔵治)
 - ▶ 木育は大切であり、この地域でしかできないという概念をアピールしたい。(今村)
- ・ガイドラインで取り扱うものは、木づかいだけでなく、森づかいということだと思う。日常でできることと、現地に行かないとできないことに分けられる。(城田)
- ・豊田市では、セカンドスクールが大人気。田舎でできる普通のことが楽しまっている。(洲崎)



今後のスケジュール(予定)と情報提供



次回のWGは12月11日(水)に上矢作振興事務所基幹集落センターにて開催します。
次回の地域部会は1月27日(月)に開催します。

- ・2013年12月1日(日): いなかとまちの文化祭を開催

